

# CLCからしだね書店便り



7 2022  
July

CLCからしだね書店では…

- ① キリスト教書が中心ですが、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もそろえています。
- ② お洒落でかわいい雑貨や小物もあります。
- ③ ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチも提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- ④ コーヒーを飲みにきてくださるだけでもけっこうです。
- ⑤ 図書コーナーも併設予定です。ドリンクを片手に、好きな本を手にとってお読みください。
- ⑥ 古書のコーナーもあります。ほりだしものもあります。
- ⑦ 読書会や著者を招いての講演会など、人と人が出会い、つながる「対話」の場を提供します。

「書店だより 7月号」は、ホームページ上に掲載しておりません。

今、キリスト教会にとって大きなテーマのひとつになっているのが「LGBIQ」です。私はこれをLGBIQ当事者の問題ではなく、当事者を取り巻く社会構造の問題だと考えています。社会構造の一部をなす書店には、LGBIQを「神からの賜物・恵み」と受け止める本と、「罪」としてその動きをくい止めようとする本と、両方が入荷してくるのですが、この2種類の本をどのように扱うべきか、書店としての悩みは尽きません。

日本の政界に影響力を持つ世界平和統一家庭連合や神道政治連盟は、LGBIQに強い反感を持っています。男女一対を基本にした理想の夫婦像・家庭像を掲げ、人をそれにあてはめ「家庭単位」で思想や行動を管理することは、独裁的な政治権力者にとっても宗教集団にとってもたいへん都合が良いのだと思います。恐ろしいのは、これらの政治的な動きに、キリスト教会やキリスト者個人が知らず知らずのうちに絡み取られてしまうことです。

じつは、毎月発行している「書店だより」で、LGBIQを「賜物」とする本と「罪」とする本を読み比べ、そこに至る思考のプロセスを考える試みをしました。肯定するにしても否定するにしても「信頼する〇〇先生がおっしゃっていることだから」という判断基準で思考停止せず、自分の頭で考え、迷い悩むお客様が増えほしいと願う気持ちでした。そのために「LGBIQは罪」と断定する本の概要も挿入したのですが、その部分が「教会の中で心を弱らせ、正常な判断力を失いかけている当事者の目に触れたとき、命にかかわることにもなるのです」と教えてくださる当事者がいて、そこまでの認識がなかった私は、自分の想像力の貧弱さに大きなショックを受けました。

教会が用いる「この世」という言い方は、自分たちの信じる教義を正当化する乱暴な逃げ道にもなります。「この世」から聞こえてくる声に耳を傾けず、考えが合わないものをキリストに逆らう勢力として切り捨てていくなら、「この世」はどんどん教会から離れていきます。「この世」のなかで、今、死にそうになっているもっとも小さい一人の命を「殺して」しまうかもしれない、そんな恐れとおののきの中で、謙虚に聴く、対話する、そして悩む姿勢が、今ほど大事な時代はないと思うのです。

そんな事情から、書店だより 7月号は、ホームページ上には掲載しておりません。

ご理解いただけたら幸いです。

C L Cからしだね書店 店長 坂岡 恵